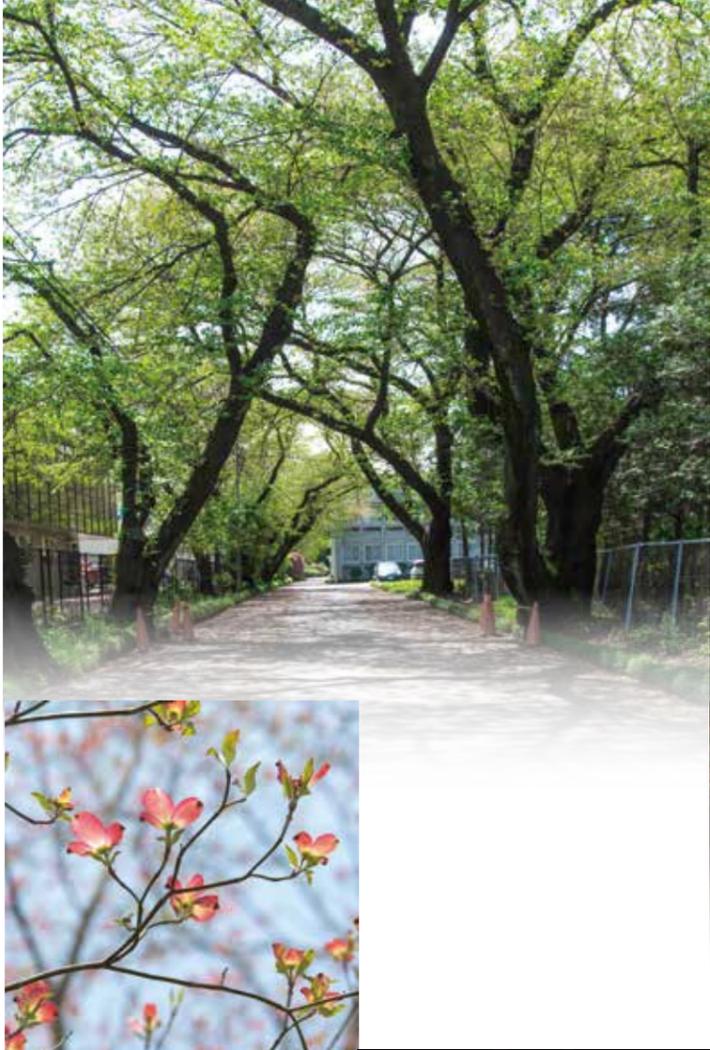
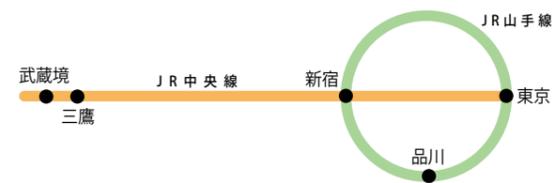


東京神学大学

〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-30
TEL: 0422-32-4185 FAX: 0422-33-0667
E-mail: tuts@tuts.ac.jp
URL <http://www.tuts.ac.jp/>

東京神学大学では毎年11月・2月・3月に入学試験を行います。
学生募集要項の請求やお問い合わせは、教務課入試係まで。

- JR中央線 東京駅から 武蔵境駅まで約40分
- JR中央線 武蔵境駅南口から小田急バス
2番乗場 境93系統「国際基督教大学」
3番乗場 境91系統「狛江駅北口」
4番乗場 吉01系統「吉祥寺駅」いずれも『西野』下車 徒歩5分
- JR中央線 三鷹駅南口から小田急バス
5番乗場 鷹51系統「国際基督教大学」「調布駅北口」、
「武蔵小金井駅南口」いずれも『西野』下車 徒歩5分



TOKYO UNION THEOLOGICAL SEMINARY 2017



PHOTO: CAC



東京神学大学

神に問う者として

「祝福してくださるまでは離しません」

(創世記32:27)

学長 大住雄一

世の中には、神がおられるなら、どうしてこういうことが起こるのか、問わずにはいられないことが、沢山あります。なぜ自分(たち)が、こんな目に遭わなければいけないのか。なぜ、自分だけが。ぜひ答えてほしい。聖書を通して神に答えてほしいのです。多くの人が、この世界の苦悩の中で、そうした問いを抱えています。私たちは聖書に対する時、問いなしに読んでいるのではありません。一人一人の、そうした深刻な問いを抱えて、自分も立っています。神は必ず答えてくださいます。神学をなす者は、この問いに答えを得るまで、諦めてはなりません。相手が神であっても言わねばならない。「祝福してくださるまでは離しません」(創世記 32:27)。

神は、ヤコブ=イスラエルに「お前は神と人と闘って勝った」と言ってくさいましたが、本当に「勝った」のでしょうか。神がヤコブの腿の関節に触れただけで、関節は外れ、ヤコブは歩けなくなります。本当に彼は勝ったのでしょうか。神の圧倒的な力の前に彼は打ち伏せられなくてはならない。勝ち負けは、最初から明らかです。でも彼は諦めなかった。自分と組み打ちをする神の名を問い、しかし、彼のほうが名を変えられ、「出し抜く者」(ヤコブ)ではなく、神が闘うという「イスラエル」になりました。あなたも、ぜひ共に闘ってほしい。わからないことがあっても諦めない。神に打ち伏せられ、その御心に圧倒され、足を引きずって歩き始めたヤコブの上に、太陽が昇ったのです(創世記 32:32)。



東京神学大学の校章の由来

東京神学大学の校章は、ギリシア語で神学を意味するテオロギア (theologia) という単語をデザインしたものです。テオロギアとは、テオス (theos : 神) についてのロゴス (logos : 言葉・学問) という意味です。神学の学び舎では、筆の上げ下げに至るまで、神学することが求められます。



大学認証評価

東京神学大学は2012(平成24)年度の公益財団法人大学基準協会の大学認定評価を受審し、大学基準に適合していると認定されました。

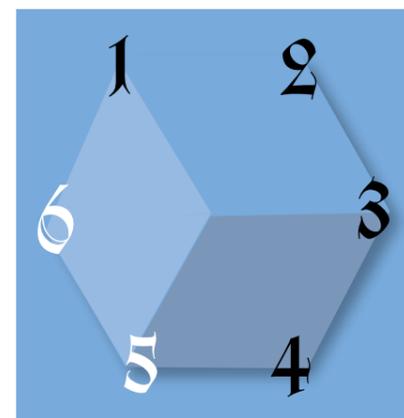
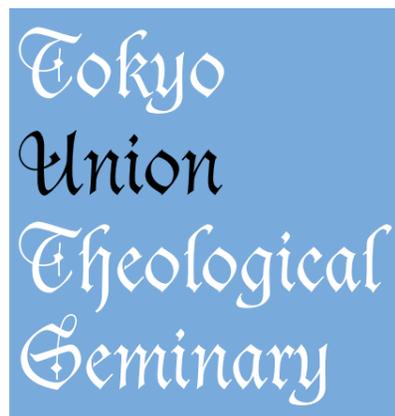
東京神学大学の理念・目的 <建学の精神>

本学の理念・目的は、キリスト教の信仰に基づいた有為な指導者を教育し、教会・キリスト教学校・病院・諸施設等に送り、人類的な新たな地球共同体時代——それはまさにイエス・キリストが示した神を愛し、己の如く隣人を愛する人格的存在が互いに自由と謙遜をもって築き上げる共同体である——の担い手を涵養育成すること、またそのために専門的な神学の理念と応用を修得させることである。

東京神学大学とは

合同神学校（ユニオン・セミナリー）としての東京神学大学

1870年代に設立された最初期のプロテスタント教会は「公会」という名称を用いつつ、超教派的教会をつくらうとする志向をもっていました。本学の合同神学校としての特色は、この超教派主義的志向にルーツがあると言えます。しかし実現までには時間がかかりました。その後、第二次世界大戦の戦時体制下にあつて30を超える教派が合流し、1941年に日本基督教団が創立されます。それに伴い、関係諸神学教育機関も合同していきます。多くの神学教育の伝統を吸収しながら、1943年には日本東部神学校、日本西部神学校、日本女子神学校が生まれ、それらが合同した日本基督教神学専門学校時代を経て、1949年に新制大学として東京神学大学が誕生します。そういう意味で、東京神学大学は日本のプロテスタント諸教会が総力を挙げて育んだ最上の伝統を受け継ぐ、合同神学校なのです。ちなみに、東京神学大学の英語名は、Tokyo Union (合同) Theological Seminaryとなります。



伝道者を養成する大学としての東京神学大学

東京神学大学は、日本では数少ないキリスト教神学専門の単科大学です。本学は教会によって建てられ、支えられてきた学校でありますから、主として諸教会に仕える牧師・伝道者を、さらにキリスト教学校、その他キリスト教関係の施設（病院等）に仕える牧師・伝道者を育成することを使命としてきました。キリスト教の牧師・伝道者として十分に整えられるためには、充実した学びが必要です。そのため、東京神学大学では、学部から大学院の修士課程（博士課程前期課程）までの一貫した神学教育プログラムを提供しています。このため、ほとんどの学生が、学部1年から入学した場合は、学部4年間と大学院2年間の計6年間、学部3年に編入学した場合は、学部2年間と大学院2年間の計4年間かけて神学を学びます。さらに博士の学位を取得することのできるプログラム（博士課程後期課程）もあります。

神学教育とは

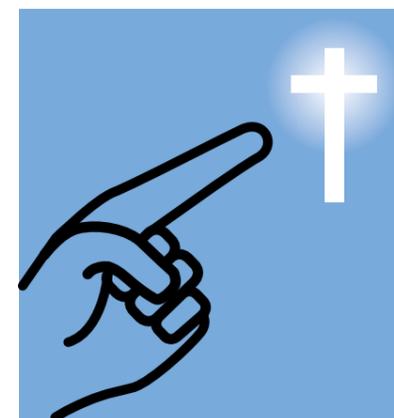
「敬虔と学問」という言葉があります。「信仰と理性」「祈りと神学」と言い換えてもいいでしょう。神を畏れ、神を礼拝することがすべての土台です。しかしそれは必ず、神をもっと深く知り、神の恵みをもっと深く味わおうとする絶えざる探求へと至ります。それによって、もっと高らかに神をほめたたえることとなります。このようにして、敬虔と学問とは深く結びついているのです。

東京神学大学は大学であるのにまさって神学校なのであって、ここでの学びにおいては、まさしく敬虔と学問の両者が求められます。生きておられる神を喜びたたえることなしに神学を学ぶことは、自分を高慢にするだけのまことに虚しい営みです。神学的な反省なしに教会に仕えようとするなら、たちまち間違え、異端的になることさえあるでしょう。敬虔が養われることと学問が磨かれることが結びついて初めて、健全な神学教育が行われることとなります。



教会による、教会のための大学としての東京神学大学

東京神学大学は、その創立の歴史からもはっきり分かるように、日本のプロテスタント諸教会が生み出してきた良き神学教育の伝統を引き継ぐ大学です。そういう意味で、本学は教会によって設立された大学であり、現在も実際に教会によって支えられながら成り立っている学校です。具体的に言えば、本学の神学生が必要とする経費のうち、およそ半分は全国各地にある諸教会およびそこに属する信徒の皆さんからの献金によっています。本学の特質を良く理解してくださる諸教会が、全国各地に後援会を組織して、祈りと献金によって支えてくださっているのです。それゆえ、東京神学大学の使命はまず、そのような諸教会のために奉仕する神学教育、神学研究をすることです。



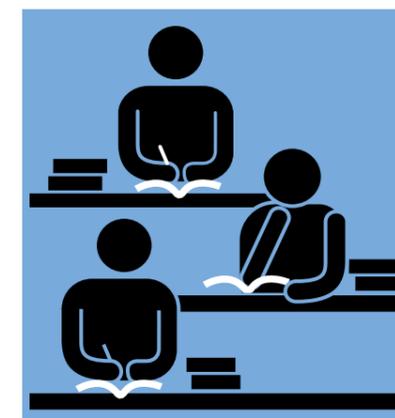
キリスト教主義学校の伝道への協力

教育は人間を人間として形成するための働きかけです。人間が人間となるためには造り主であり救い主である神を知ることがどうしても必要です。ですから、まことの教育がなされるためにキリスト教教育が果たす使命は大きいのです。キリスト教学校が日本の学校教育の中で大きな位置を占めていることは神の祝福です。

多くのキリスト教学校は学校礼拝をささげ、聖書科の授業を行います。それらを中心としたキリスト教教育の担い手となるのが宗教主任（チャプレン）、聖書科教師です。宗教主任、聖書科教師はひとつの教科（聖書科）の教員であることにとどまらず、学校を働き場とする牧師・伝道者として、学校での伝道を推し進め、生徒と教職員全体の牧会にあたるのが望ましい形であると言えます。

神学研修志望とは

東京神学大学は、伝道者・献身者の養成を第一の目的とし、そのための神学の研鑽と教育に励んでいます。しかし、近年の教会の実情と必要に応じて、「教会の信徒として教会によく仕え、また社会に貢献したい」という志をもつ方についても「神学研修志望」として神学部神学科への若干名の入学を受け入れることになりました。できれば、そのような方々の中から、さらに将来、伝道献身を志す方が現れることを願っています。

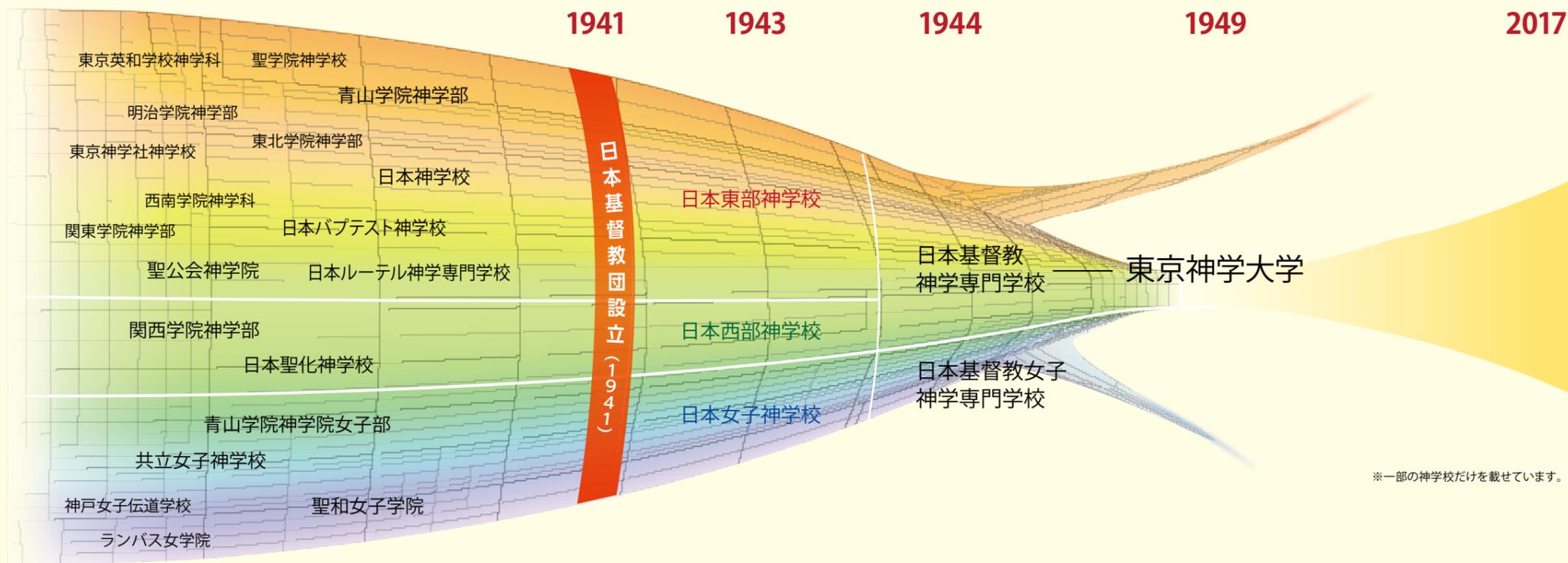


開かれた学び — 公開夜間神学講座

信徒のために開講されている夜間の神学講座です。すでに70年の歴史を有し、これまでの受講生は1000名を超えています。毎週月曜日と金曜日の夜6時から8時に銀座教会・福音会センター 地下の会議室で行われます。講師陣は東京神学大学で教鞭を執る教師たち。聖書学、教義学、歴史神学、実践神学、キリスト教教育、美術等、多方面にわたる講義を2年間かけて受講します。科目受講生や聴講生のコースもあります。神学を学びたい方ならどなたでも受講することができます。

東京神学大学の歩み

東京神学大学を形作って来た人々



東京神学大学の歴史

日本でのプロテスタント伝道は1859年に始まりました。宣教師たちが横浜や長崎に来て、伝道を始めたのです。最初の教会は1872年に横浜に設立された「日本基督公会」とされています。それに先立つ1863年、J. C. ヘボンはヘボン塾を開いています。宣教師たちは教会と並んで学校をも建てました。1873年にS. R. ブラウンが設立したブラウン塾は明確に伝道者養成を目指した学校でした。宣教師たちは日本人伝道者の養成を目指して、次々と神学校を産み出していったのです。

東京神学大学は英語の名称に「UNION (合同)」という言葉が入っているように、合同神学校です。東京神学大学のルーツとなった神学校の名前をすべて挙げることはとてもできません。改革長老系では、上に挙げたブラウン塾は明治学院神学部や東京神学社となり、メソジスト系の神学校は青山学院神学部となりました。ここに聖学院神学校も加わっています。バプテスト系では、西南学院神学科と関東学院神学部が合同して日本バプテスト神学校が生まれました。1941年に諸教派が合同して日本基督教団が誕生した後、1943年にはすでに挙げた神学校を初めとして8つの神学校が合同して日本東部神学校が設立されました。同じように関西学院神学部を中心として3つの神学校によって日本西部神学校が、また青山学院神学部女子部、共立女子神学校等4つの神学校によって日本女子神学校が生まれました。このようにしてほとんどの神学校が合同しましたが、そこに加わらなかった神学校もありました。さらに翌1944年、東部、西部の神学校は合併して、日本基督教神学専門学校と



第1期生と教授たち

なり、日本女子神学校も日本基督教女子神学専門学校と改称しました。戦後、1948年に日本基督教女子神学専門学校は閉校し、その流れを受け継ぐ一方、8つの神学校が教派単位での教団離脱や学校復興等によって離れていくことになりました。こうした経緯で、日本基督教神学専門学校は1949年、新制大学の東京神学大学となったのです。

このように、ほぼすべての主だった教派にわたる神学校の合同によって東京神学大学が形作られてきたこととなります。本学の神学は、公同教会の伝統に根ざし、宗教改革の福音的信仰を堅持し、福音的公同教会の形成に仕えようとするものです。歴代の教員たちもさまざまな教派的伝統の中で育てられつつ、合同教会である日本基督教団の伝道と教会形成に資することを追い求め、さらには広くアジアのプロテスタント教会が堅く立てられること願って、研究と教育を行ってきています。

北森嘉蔵 きたもり かぞう



略歴 1916年熊本市にて誕生、旧制第五高等学校分科在学中にルーテル教会で受洗。1935年日本ルーテル神学専門学校へ入学。1938年京都帝国大学文学部哲学科入学、田辺元に指導を受ける。1946年30歳で『神の痛みの神学』新教出版社より刊行。1949年東京神学大学教授となり、組織神学を教え、1982年に定年退職。1950年代々木上原教会牧師の赤岩栄の「共産党入党宣言」のゆえに24名が脱退して、教団西原教会（現、千歳船橋教会）を創立。主任担任牧師として1996年まで46年間牧会。1998年召天。

神の痛みの神学

キリスト教が日本社会で市民権をもち、日本の神学が世界のキリスト教界で市民権をもつために重要な貢献を果たした人物が北森嘉蔵と言えよう。1916年熊本市出生後、のちに五高在学中にルーテル教会で受洗し、佐藤繁彦を慕って大学に行かず日本ルーテル神学専門学校に入学し、卒業後に京都帝国大学に進んだ。

京大在学中に、北森は西田哲学と田辺哲学を学びつつ、神学的構想を盤石なものにした。この時期に『十字架の主』を公刊して(1940年)神学の基本構想を発表したが、その結果が『神の痛みの神学』(1946年)の出版に至り、思想界で脚光をあびた。30歳の時である。『神の痛みの神学』は版を重ね、すでに古典的名著として取り扱われ、英語、ドイツ語、スペイン語、韓国語に翻訳出版されて世界に広く知られ、マイケルソン、モルトマン等欧米神学者の注目するところとなった。

北森は1950年より46年間、日本基督教団千歳船橋教会で牧会を兼務しつつ、8年に亘って朝日カルチャーセンター（新宿）で旧新約聖書講話をした。その内容を『詩編講話』、『創世記講話』等、10数冊の講話シリーズとして発行。

神の痛みの神学は個教会を超えて、教会一致を目指すエキュメニカル運動の基礎神学としても展開され、その具体化として日本基督教団の『合同教会論』(1993年)が示された。(朴 憲郁)

【主な著書】

- 『神の痛みの神学』新教出版社 1946年
- 『救済の論理』創元社 1950年
- 『宗教改革の神学』新教出版社 1960年
- 『人間と宗教』東海大学出版会 1965年

熊野義孝 くまの よしたか



略歴 1899年に芝高輪に生まれる。植村正久の東京神学社に学ぶ。学生時代にすでに植村正久の『福音新報』の編集を手伝い、記事を執筆。その後、日本基督教団函館教会牧師を務めた後、東京の武蔵野教会牧師になる。同時に日本神学校講師となり、その後日本基督教神学専門学校を経て、東京神学大学教授。組織神学、新約学を教えた。数多くの独創的な著作を執筆し、全集にまとめられている。

『教義学』全3巻

熊野義孝はデビュー作『終末論と歴史哲学』で終末論的思惟を神学の根本姿勢に据えた。これはカール・バルトの『ローマ書』に匹敵するもので、当時西田幾多郎も称賛したことで知られる。しかし、熊野は同時に宗教史学派のトレルチをも評価し、その視点からきわめてユニークな『基督教概論』を執筆した。そこではキリスト教の本質が宗教的な仲保・媒介の問題として掘り下げられ、歴史的相対主義に陥ることなく、神学の営まれる場としての教会が終末論的な歴史形成の主体として明確に定位されるに至っている。また『教義学』全3巻の執筆に取り組み、日本における最初の本格的な教義学の集大成を結実させた。歴史的教会という主題を日本で最初に神学の視座に据えたのは熊野義孝である。キリスト教は単なる聖書主義や観念的な精神主義、あるいは心情主義であってはならない。キリスト教は歴史的な身体を持つ。それゆえ普遍的な公同教会の客観的な信条の上で、福音的な宗教改革の精神に則ってキリストの身体としての教会を形成すべきである。熊野は留学経験こそなかったが、欧米の文献を読みこなし、日本の教会を神学の座として独自の道を切り開いた。その学統を継ぐ光栄を感謝したい。(芳賀 力)

【主な著書】

- 『弁証法的神学概論』1932年、『終末論と歴史哲学』1933年
- 『キリスト論の根本問題』1934年、『現代の神学』1936年、『基督教の特異性』1937年
- 『教会と文化』1941年、『教会と信条』1942年、『新約聖書神学の諸問題』1943年
- 『トレルチ』1944年、『基督教概論』1947年、『基督教の本質』1949年
- 『教義学1-3巻』1954-1965年、『キリスト教倫理入門』1960年
- 『日本キリスト教神学思想史』1968年

4つの神学

聖書神学

言葉の科学

聖書は、人間の言葉に表された神の言です。言葉は神と人との間であれ、人と人との間であれ、間で成り立つものです。言葉によって、主体の間の関係が、どのようなものであるかが表されますが、どのような言葉が語られるかによって、主体の関係が作り出されるものでもあります。聖書には何がどのように書かれているのか。それゆえ神と人とはどのような関係にあるのか。聖書神学はそのことを究明します。何より大切なのは、聖書そのものを聖書に書いてある言葉で、じっくりと徹底的に読むことです。

指し示された契約(旧約)と実現した契約(新約)

現代の聖書神学は、旧約聖書神学と新約聖書神学に分かれます。一方は律法によって指し示され証された契約であり、もう一方はイエス・キリストによって実現した契約です。しかしその契約の内容は同一です。

歴史神学

歴史神学とは

歴史神学とは、キリスト教会と教会の教え(教理)の歴史を学ぶ神学の分野です。キリスト教は、主イエス・キリストの福音の宣教から始まりますが、古代の地中海世界から、ヨーロッパ、さらにはアメリカ、アジア、アフリカと世界中に伝播していきます。福音という宣教の核になるものを保ちつつ、時代や文化の移り変わりとともに、さまざまな教会と教理が形成されていきます。これらは、わくわくするような人間のドラマでもあります。そこに神の摂理と計画を読み取ることもできます。

テキストをコンテクストに照らして読む学問

歴史神学は、歴史史料との格闘を大前提とします。そのためには、ギリシア語やラテン語、さらには現代の諸言語で書かれた史料を読む訓練を必要とします。歴史史料(テキスト)は、その史料が書かれた歴史や文化の脈絡(コンテクスト)の中で書かれました。そこで、テキストをコンテクストに照らして読む作業をします。歴史を読み解くセンスは、現代社会に起こっている問題を分析し理解するセンスとつながります。したがって、歴史神学は、すぐれて現代的な学問と言えます。

組織神学

教義学・倫理学・弁証学の三分野から成る

組織神学は、キリスト教の信仰内容を現代の文脈に即して捉え直し、理解を深めて行く学問です。そのうち「教義学」は、旧約と新約の聖書神学、教会史の知識を踏まえた上で、代々の教会が大切に受け継いできた教えを、体系的・組織的・総合的に考察し、その現代的意義を明らかにします。「倫理学」は、キリスト者が具体的な生活の場で直面する諸問題をどう考え、行動すべきかを考察し、教会に進むべき指針を提供します。「弁証学」は、現代社会にあつてキリスト教に向けられる疑問に答え、福音の真理性を明証しようとするものです。

確信をもって福音を宣べ伝えるために

福音の真理を宣べ伝えるためには、熱心さだけでは空回りします。また木を見て森を見ない部分的な知識では道に迷ってしまいます。伝道者にとって必要なことは、統合的な信仰の深い見識とそれに裏付けられた確信です。組織神学はまた教会の自己吟味として実践神学に理論的土台を提供します。

実践神学

神の実践に参加するために

実践神学のルーツは、「牧者の学」「司牧学」にあります。しかし、「牧師の実践」にまさって、「神の実践」すなわち「神の救済行動」が主題ですから、今日では「実践神学」と呼んでいます。牧師の務めは神の実践に参加させていただくことです。神の救済行動の中で、人間が神の道具として用いられるために、「説教学」「礼拝学」「牧会学」「キリスト教教育学」の学びが必要になります。

神学諸科を統合する課題も

そもそも神学全体が生きておられる神を神として崇め、神の実践にお仕えるためにあります。教会やキリスト教学校での働きには、神学的な知識、能力を総動員することになります。そのため実践神学には、神学諸科を統合して、教会や学校での実践に結びつけるという課題もあります。

授業科目一覧

学部 ★必修科目 ☆選択科目 *選択必修科目 ◇専攻必修科目

	1年	2年	3年	4年
外国語科目・保健体育科目	【学際基礎科目】 *哲学思想史 *キリスト教と世界史 *キリスト教と文学 1 世界文学 *キリスト教と文学 2 日本文学 *キリスト教と芸術 1 美術史 *キリスト教と芸術 2 音楽史 *心理学 *社会史 *法と人権 1 法学概論 *法と人権 2 日本国憲法 *宗教と社会 1 デモクラシーと政治 *宗教と社会 2 ウェーバーとトレルチ *ドイツの歴史と教会 *精神医学とキリスト教 *現代の自然観 *生命の理解とバイオエシックス *食品と栄養 *保健衛生 *情報基礎	【神学基礎科目】 ★キリスト教通論Ⅰ・Ⅱ ★聖書通論 1 旧約通論 ★聖書通論 2 旧約時代史 ★聖書通論 3 新約通論・歴史 ★神学通論 【外国語科目】 ★英語ⅠA ★英語ⅠB ☆英語Ⅱ ☆英語実践Ⅰ・Ⅱ ★ドイツ語ⅠA ★ドイツ語ⅠB ☆ドイツ語Ⅱ 【保健体育科目】 ★体育Ⅰ・Ⅱ	1年次入学者は、原則としてこれらの科目を2年間かけて履修・修得する。 3年次編入学者の場合、神学通論を除き、基本的にこれらの科目が認定されるが、履修を奨励している。	
専門教育科目		【聖書神学関係】 ★旧約聖書神学Ⅰ・Ⅱ ★新約聖書神学Ⅰ・Ⅱ ★ギリシャ語Ⅰ・Ⅱ 【組織神学関係】 ★組織神学Ⅰ 【歴史神学関係】 ★教会史Ⅰ・Ⅱ 3年次編入学者は、3年次に履修・修得する。	【聖書神学関係】 ◇ヒブル語Ⅰ・Ⅱ ☆イスラエル古代史 【歴史神学関係】 ★教会史Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ ★宗教史Ⅰ ☆宗教史Ⅱ 【古典語】 ☆ラテン語Ⅰ・Ⅱ 【神学書講読】 *英語神学書講読・聖書Ⅰ・Ⅱ *独語神学書講読・聖書Ⅰ・Ⅱ *英語神学書講読・組織Ⅰ・Ⅱ *独語神学書講読・組織Ⅰ・Ⅱ *英語神学書講読・組織歴史Ⅰ・Ⅱ	【聖書神学関係】 ★旧約聖書神学Ⅲ ☆旧約聖書神学Ⅳ ★キリスト教教育概論 【実践神学関係】 ★実践神学概論 ★キリスト教教育概論 【専攻間共同科目】 ☆アジア伝道論演習 【学部演習】 *旧約聖書学部演習 *新約聖書学部演習 *組織神学学部演習 *歴史神学学部演習 【歴史神学関係】 ★組織神学Ⅲ 【歴史神学関係】 ☆アメリカ教会史 ☆教理史Ⅰ・Ⅱ
教職課程科目	教職概論 3年次編入学者は、3年次に履修・修得する。	教育基礎論Ⅰ・Ⅱ 宗教科教授法A・B	心理発達と教育 道徳指導法 特別活動指導法 教育的指導と相談の研究Ⅰ・Ⅱ	教育の方法と情報技術Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習(中・高) 教育実習Ⅰ・Ⅱ

※教職課程科目は、教育職員免許状取得希望者対象。免許状取得に必要な科目の履修・修得には最低でも3年間を要するが、3年次編入学者は、大学院修了までに専修免許状取得を目指すことができる。

研究科(大学院) + 実践神学研修課程として、原則的に必修。

前期課程	後期課程
【聖書神学関係】 旧約聖書原典講読Ⅰ・Ⅱ 旧約聖書原典釈義Ⅰ・Ⅱ 旧約聖書神学特講Ⅰ・Ⅱ 旧約聖書学特研Ⅰ・Ⅱ 旧約聖書学演習Ⅰ・Ⅱ 聖書考古学 アラム語 シリア語 アッカド語 古代オリエント史Ⅰ・Ⅱ 新約聖書学特講Ⅰ・Ⅱ 新約聖書学演習 新約聖書学特研Ⅰ・Ⅱ 新約聖書原典釈義Ⅰ・Ⅱ 【組織神学関係】 組織神学特講Ⅰ・Ⅱ 組織神学特研Ⅰ・Ⅱ 組織神学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 信条学	【歴史神学関係】 教会史演習 教理史演習Ⅰ・Ⅱ 教会史特講Ⅰ・Ⅱ 教理史特講Ⅰ・Ⅱ 英国教会史 【実践神学関係】 宗教社会学演習 教会音楽 キリスト教教育特講 牧会心理学特講 牧会カウンセリング特研 キリスト教教育特研 実践神学演習 臨床牧会教育 牧会心理学 +礼拝学演習 +説教学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ +牧会学演習 +総合特別講義
【専攻間共同科目】 共同演習 アジア伝道論演習 日本伝道論演習 【論文演習】 修士論文指導演習旧約神学Ⅰ・Ⅱ 修士論文指導演習新約神学Ⅰ・Ⅱ 修士論文指導演習組織神学Ⅰ・Ⅱ 修士論文指導演習歴史神学Ⅰ・Ⅱ	【聖書神学関係】 旧約聖書神学特殊研究 旧約聖書文学特殊研究 旧約聖書原典特殊研究 聖書語学特殊研究 聖書考古学特殊研究 新約聖書神学特殊研究 新約聖書原典特殊研究 聖書解釈学特殊研究 原始キリスト教特殊研究 【組織神学関係】 教義学特殊研究 現代神学特殊研究 宗教改革神学特殊研究 現代哲学特殊研究 組織神学共同演習 キリスト教社会倫理特殊研究

教員紹介



大住雄一 おおすみ ゆういち

●学歴/経歴 1983年東神大大学院卒。独ベール神学大学卒（神学博士）。日本基督教団正教師。1990年に着任、現在、教授。

●専門分野 旧約聖書神学

●研究テーマ 広い守備範囲をカバーしなければならない旧約聖書の学びの中で、小友先生と共に、また若い田中先生に期待しながら、私が特に専門にしているのは、律法にかかわる議論です。

その言葉の形、言葉の奥に潜んでいる神の意図、それらを広く、深く学んできました。しかし、このごろ律法の中でも十戒に議論が集中しつつあります。それだけ学びの視野は広いのです。しかし同時に、律法へのイスラエルの賛美や律法に込められた知恵の伝統に注目しています。初めから申命記を丹念に読み続けていますが、詩編に目を移して、その言葉の不思議を楽しんでいます。



《著書・論文》

- ・Deuteronomy, in: W.R.Farmer et al.(eds.), International Bible Commentary, Colleville MN (The Liturgical Press), 1998.
- ・『詩篇研究』への補遺—アルファベータうたをめぐって—大野恵正他編『果てなき探求 旧約聖書の深みへ [左近淑記念論文集]』教文館 2002年
- ・『神の面前に立って 十戒の心』教文館 2015年



小友 聡 おとも さとし

●学歴/経歴 1986年東神大大学院卒。独ベール神学大学卒（神学博士）。日本基督教団正教師。1999年に着任、現在、教授。

●専門分野 旧約聖書神学

●研究テーマ 旧約聖書学が専門ですが、特に旧約聖書の中で後期の知恵文学を研究領域としています。コヘレトの言葉や雅歌、ダニエル書など、周延的な文書から旧約（ユダヤ教）の思想や倫理を探究しています。

特にコヘレトの言葉と黙示思想の関係に関心があります。コヘレトがダニエル書の黙示思想と対論をして反黙示的性質を有することから、旧約以後のユダヤ教や原始キリスト教の思想の根源にあるものを解明できるのではないかと考えています。また、最近は注解書執筆のほか、新しい翻訳聖書発行のため、とりわけ旧約詩文学の原典翻訳と編集に力を注いでいます。旧約聖書神学の基本概念を新たに展開することが今後の課題です。



《著書・論文》

- ・著書（共著）：『果てなき探究』（教文館）、『テレビンの木陰で』（教文館）等
- ・訳書：『現代聖書注解 出エジプト記』、『現代聖書注解 コヘレトの言葉』、『現代聖書注解スタディー版 創世記』（いずれも日本キリスト教団出版局）等
- ・監訳（左近豊氏と共に）：W.ブルグマン『旧約聖書神学辞典』（日本キリスト教団出版局、2015年）



中野 実 なかの みのる

●学歴/経歴 1987年東神大大学院卒。米クレアモント大学院大学宗教学部博士課程卒（哲学博士）。日本基督教団正教師。2001年に着任、現在、教授。

●専門分野 新約聖書神学

●研究テーマ これまで信仰と歴史の関係に神学的関心を抱きつつ、史的イエス研究、福音書研究を進めてきました。たとえば、「イエスとレプラの清め：イエスにとってイスラエルとは？」『聖書学論集38』（日本聖書学研究所、2006年）を参照。さらに聖書の正典性に関する議論にも関心をもち、その分野の研究も進めています（著書・論文の項目参照）。また現在、（日本ではなかなか研究されることの少ない）ヘブライ書の研究も開始し、注解書を執筆中（日本キリスト教団出版局のNTJ注解シリーズより出版予定）です。



《著書・論文》

最近、友人の研究者たちと共に『新約聖書解釈の手引き』（日本キリスト教団出版局、2016年）を出版しました。内容は、伝統的な歴史批評学的方法論の紹介にとどまらず、むしろそれを展開していく（たとえば、社会科学批評、修辭学批評、あるいは超えていく新しい方法論（たとえば、物語批評、スピーチアクト分析、文化研究批評）の解説を提供しようとするものです。私は、「正典批評」について紹介しています。「正典批評」とは、聖書を信仰共同体（教会）の書物として再評価することに積極的に関わる学問的運動です。



焼山満里子 やきやま まりこ

●学歴/経歴 1997年東神大大学院卒。米クレアモント大学院大学宗教学部博士課程卒（哲学博士）。日本基督教団正教師。2007年に着任、現在、教授。

●専門分野 新約聖書神学

●研究テーマ パウロ書簡。初期キリスト教における共同体、教会形成。NTJ注解シリーズ（日本キリスト教団出版局）では一、二テサロニケを担当しています。また、新約聖書の証言から読み取りにくい女性の活躍を掘り起こしたいと考えています。そのため、社会学的研究を取り入れ、見えてくることに関心を持って研究しています。新約聖書研究を通して、わたしたちを、人種、性別、地位を越えた交わりへと招く福音の真髄に触れていただきたいと思えます。



《著書・論文》

- ・訳書：『現代聖書注解 コリントの信徒への手紙1』 R. B. ヘイズ（日本キリスト教団出版局 2002年）
- ・「ローマ書6章における洗礼伝承についての再考」『新約学研究』（28号、2008年、15-26頁）
- ・「アンデレ行伝におけるエバの回復：第二のエバとしてのマキシミラ」『新約学研究』（36号、2008年、32-42頁）
- ・「テモテへの手紙—2章15節『女は子を産むことで救われる』を巡る類型論的考察」『新約学研究』（38号、2010年、21-33頁）



田中 光 たなか ひかる

●学歴/経歴 2008年東神大大学院卒。加トロント大学ウィクリフ・カレッジ神学修士課程卒（神学修士）。東神大博士課程後期課程単位取得退学。日本基督教団正教師。2015年に着任、現在、助教。

●専門分野 旧約聖書神学

●研究テーマ 私の長期的な研究テーマは、旧約聖書の正典（カノン）としての意義を重んじた聖書解釈の探究です。この主題を深めた研究者として、B. S. チャイルズというアメリカの聖書学者がおりますが、私はチャイルズの思索を引き継ぎC. R. サイツの下で、イザヤ書の正典的解釈に取り組みました。「正典的解釈」とは、聖書がその最終形態において獲得している神学的構造に注意を払い、同時に、教会が聖書を神の言葉として解釈し続けてきた営みに学ぶことを大切にしている解釈的アプローチのことです。その意味で、私の関心は、旧約聖書の歴史的探究だけでなく、教会における旧約解釈にも向けられています。



《著書・論文》

- ・“Athanasius as Interpreter of the Psalms: His Letter to Marcellinus,” Pro Ecclesia 21/4 (2012): 422-447.
- ・“Anticipating the New David and the New Moses: A Canonical Reading of the Book of Isaiah”(ThM Thesis), University of Toronto/Wycliffe College (2013).
- ・「聖書学と聖書の伝統的解釈: B. S. チャイルズの思索を手がかりに」『伝道と神学』6号、2016年、77-119頁
- ・「イザヤ書4:2-6におけるメシア待望: カノンの解釈の試み」『伝道と神学』7号、2017年



神代真砂実 こうじろ まさみ

●学歴/経歴 1987年東神大大学院卒。英アバディーン大学神学部博士課程卒（哲学博士）。日本基督教団正教師。1998年に着任、現在、教授。

●専門分野 組織神学（教義学、特にカール・バルトの神学思想）

●研究テーマ 教義学・倫理学・弁証学から成る組織神学という分野ですが、教義学との関係で言えば、特にカール・バルトの神学から学びながら思索を続けています。より具体的な領域としては、三位一体論と予定論に関心があります。教義学から倫理学や弁証学に展開するにあたって、ずっと興味を持っているのは信仰の問題です。「信じる」というのはどういうことであるのか、信仰と一般的な信頼とは、どう関係しているのかといったことを考え続けています。さらには、日本人とキリスト教という問題も忘れてはなりません。この国での伝道に仕える神学をする者にとって、避けられない課題だと思っています。



《著書・論文》

著書 『ミステリの深層——名探偵の思考・神学の思考』（教文館） 古今の推理小説を題材に、神学の立場からミステリはどう読めるのか・神学のものの考え方とはどのようなものであるのかを論じてみた本です。やさしい話から始めて、だんだん難しくなるという構成をとっていましたが、意図していたよりも難しくなってしまったかもしれません。趣味が昂じたものだけに、楽しい仕事でしたので、手に取って頂けたら嬉しいです。



芳賀 力 はが つとむ

●学歴/経歴 1979年東神大大学院卒。独ハイデルベルク大学神学部博士課程卒（神学博士）。日本基督教団正教師。1988年に着任、現在、教授。

●専門分野 組織神学（教義学、倫理学、弁証学）

●研究テーマ ①現代社会を根底から揺るがす「神義論」を巡る諸問題に神学的に取り組み、聖書的な考え方の筋道を整理し、教会の語りに展望を開くことを目指している。②共同体論者との対話を通じて「キリスト教的共同体論」の新たな構築を目指している。③聖書の正典的解釈を共同体の解釈学として方法論化することに努めている。④キリスト教の伝統的な教理をナラトロジー（物語論）という新しい手法を用いて再活性化し、「現代における教義学」の体系的叙述を目指している。⑤宣教学の分野で積み重ねられてきた伝道論の枠組みをたどり直しながら、「日本伝道論」を多方面から検討し、有効なストラテジーを模索している。



《著書・論文》

- ・『救済の物語』日本基督教団出版局 1997年
- ・『物語る教会の神学』教文館 1997年
- ・『大いなる物語の始まり』教文館 2001年
- ・『使徒的共同体』教文館 2004年
- ・『神学の小径I 啓示への問い』キリスト新聞社 2008年
- ・『神学の小径II 神への問い』キリスト新聞社 2012年
- ・『神学の小径III 創造への問い』キリスト新聞社 2015年



須田 拓 すだ たく

●学歴/経歴 2000年東神大大学院卒。英ケンブリッジ大学神学部留学。東神大博士課程修了（神学博士）。日本基督教団正教師。2013年に着任、現在、准教授。

●専門分野 組織神学（教義学・倫理学・弁証学）、ピューリタン神学

●研究テーマ 神が父・子・聖霊なる三位一体のお方であることが信仰全体に、また教会のあり方にどのように影響を及ぼしているかに関心を持っており、救済の出来事に父・子・聖霊がどのように関わっておられるのかを探究しています。また、自由教会を生み出し、自由や寛容といった近代世界の重要な価値概念の成立に大きく影響を与えた17世紀イギリス・ピューリタンの神学が、現代においてなおどのような意義を持ち得るかについても研究しています。



《著書・論文・訳書》

- ・「ジョン・オーウェンの三位一体論の神学における自由の理解—キリスト者の自由とその教会論並びに寛容論への影響—」（博士論文、東京神学大学 2012年）
- ・「聖霊の位階性について」『神学』76号、東京神学大学神学会 2014年
- ・「ヴォルフハルト・バネンベルクにおける福音と教会」『伝道と神学』6、東京神学大学総合研究所 2016年
- ・「17世紀イングランド・カルヴィニズムの義認論—ジョン・オーウェンの場合—」『伝道と神学』7、東京神学大学総合研究所 2017年
- ・「ジョン・オーウェンの寛容論—17世紀イングランドの寛容概念と良心の自由をめぐる—」『ピューリタニズム研究』11号、日本ピューリタニズム学会 2017年
- ・「コリン・ガントン『キリストと創造』教文館 2003年

教員紹介



関川 泰寛 せきかわ やすひろ

●**学歴/経歴** 英工ディンバラ大学神学部卒。1993年東神大大学院修士課程卒（神学修士）。日本基督教団正教師。1996年に着任、現在、教授。
●**専門分野** 歴史神学（古代教会史、教父学など）
●**研究テーマ** 4世紀のギリシア教父、アタナシオスの研究や古代の聖霊論やキリスト論などの教理的な主題の研究をしています。アタナシオスは、アレクサンドリア派が、神の一被造物であるキリストという理解を主張したのに対して、キリストが真の神であるという教えを一貫して守りました。このような主張が、381年のニカイア信条に結実します。キリスト教の正統説の基となる教理の形成に貢献したのが、アタナシオスです。さらに最近では、宗教改革者カルヴァンについても、いくつかの論文を書いています。古代教会から宗教改革者に継承される神学的伝統を歴史的に跡付けることが、わたしの研究の主題となっています。



●**著書・論文**
ニカイア信条の成立と内容を解説した『ニカイア信条講解』（教文館）、アタナシオス神学の学術的な研究書『アタナシオス神学の研究』（教文館）があります。教会の形成の課題を論じた書物が『聖霊と教会』（教文館）です。さらに一般の読者を意識した、キリスト教の入門的書物『ここが知りたいキリスト教』（教文館）や『信仰30問30答』（共著、教団出版局）等があります。



朴 憲郁 パク ホンウク

●**学歴/経歴** 1974年東神大大学院卒。監理教神学大学研修。韓国イエス教長老会神学大学院卒。独テュービンゲン大学神学部博士課程卒（神学博士）。在日大韓基督教団正教師（現在、日本基督教団への宣教師）。1994年に着任、現在、教授。
●**専門分野** 実践神学（キリスト教教育、アジア・キリスト教伝道学）、新約神学

●**研究テーマ** キリスト教教育諸分野の中心となる「教会教育学」が近年確立されてきました。古代から教会教育の柱であった「受洗志願者教育」が現在の研究テーマですが、一般教育学や日本の公教育との関係等、多様な分野も研究の対象となります。



●**著書・論文**
・朴憲郁、平野克己監修 執筆『10代と歩む洗礼・堅信への道』日本キリスト教団出版局
・「洗礼・堅信を巡る教会教育」、『神学』76号、東京神学大学神学会、2014年12月
・「教会教育学の出現とその特性」、『キリスト教教育論集』第20号、日本キリスト教教育学会、2012年3月



棚村 重行 たなむら しげゆき

●**学歴/経歴** 1977年東神大大学院卒。米シカゴ大学神学部大学院博士課程卒（哲学博士）。日本基督教団正教師。東京神学大学名誉教授。1993年に着任、現在、特任教授。
●**専門分野** 歴史神学（教会史）
●**研究テーマ** 近年は19世紀の日米のプロテスタント教会史と二国の比較神学思想史研究に集中しています。その成果として、2009年に『二つの福音は波濤を越えて』を出版しました。現在英国教会史も関心に入れ、大学院では「英米日・福音主義の歴史」というゼミも開いています。また、「霊的生活の歴史」ということで、聖書の時代から現代日本のキリスト教霊的生活史演習も開いています。学部では、教会史、世界宗教史の講義で皆さんにお目にかかることでしょうか。



●**著書・論文**
・『現代人のための教理史ガイド』（2001）
・『二つの福音は波濤を越えて』（2009）等
・「福音同盟会の教会史的背景とその性格」（1999）
・「二つの福音は山河を越えて—一致教会の『第二信条問題』と植村正久の神学的起点」（2011）
・「福音と福音主義」再考（一）、（二）」（2015～2016）
・「宗教改革なきプロテスタンティズム」受容の功罪」（2016）等

バストラルケア担当
ウェイン・ジャンセン Wayne Jansen



●**学歴/経歴** 1990年米ウェスタン神学大学院博士課程卒（牧会学博士）。米国改革派教会正教師（現在、日本基督教団への宣教師）。2002年に着任、現在、教授。
●**専門分野** 実践神学（臨床牧会教育）など
●**研究テーマ** 日本における臨床牧会のあり方—総合牧会ケアの意義
「愛」という言葉はキリスト教においてよく知られている言葉であると同時に、真に理解しにくい言葉でもあります。この抽象的である言葉には、具体的な行為が求められています。夫婦、家族、教会、また、社会において、キリスト者としてどのように愛する事を行うのかという学びに従事しています。また、神の民—キリスト者である私たちが相互的にケアを与え合うことが不可欠です。神の家族としてどのようにこの相互的ケアを行うことが研究課題です。



●**著書・論文**
・「Creation: A Theological Response to Nuclear Proliferation」『神学』73号（2011年）
・「Clergy Misconduct: Abuse of Honor」『伝道と神学』4号（2014年）
・「アメリカ改革派教会：現代の課題」『季刊教会』99号（2015年）
・「Picture Perfect Paradise Pursuit: Our Family and God's Family」『伝道と神学』6号（2016年）
・「Pagan Prophets: Healed by the Heathen」『神学』78号（2016年）



小泉 健 こいずみ けん

●**学歴/経歴** 1997年東神大大学院卒。独ハイデルベルク大学神学部博士課程卒（神学博士）。日本基督教団正教師。2008年に着任、現在、教授。
●**専門分野** 実践神学（説教、教会建設論等）
●**研究テーマ** 宗教改革者は教会を「御言葉の創造物」と呼びました。説教は新しい人間を創造し、また教会共同体を創造します。神の新しい創造の御業に仕える力ある説教が必要です。神の言葉の説教が神の言葉であることを改めて探究した神の言葉の神学の真理契機を継承し、それ以降の説教が取り組んできた言語学や修辞学との対話も受け入れつつ、人間の業である説教が神の言葉への奉仕にふさわしいものとなることを追いつめています。説教は、同じく救済の手段である聖礼典と深く結びついているので礼拝学へ、また牧会的対話の土台となるので牧会学へと必然的に広がっていくことになります。



●**著書・論文**
・『説教による教会形成（説教塾ブックレット10）』キリスト新聞社
・「神の語りかけか、教会の祈りか」『神学』72
・「創造について説教する」『伝道と神学』2
・「救済史と説教」『神学』74
・「説教における世界史と救済史」『伝道と神学』3
・「神を語る言葉」『神学』75
・「力ある説教を求めて」『伝道と神学』4
・「洗礼礼典におけるエピクレーシス」『神学』76



長山 道 ながやま みち

●**学歴/経歴** 2002年東神大大学院卒（神学修士）。現在、独ボン大学神学部博士課程在籍。日本基督教団正教師。2013年に着任、現在、准教授。
●**専門分野** キリスト教教育学、組織神学
●**研究テーマ** キリスト教教育学の分野では、主に原理的な研究をしています。信仰を与えることも、聖化をもたらすことも神の業であるのに、人間によるキリスト教教育は可能なのか、可能だとすればそれはなぜか、またどのようにしてかということを探求しています。同時に、一般的な教育学に解消されない、キリスト教教育独自の的方法論に関心を持っています。組織神学の分野では、マルティン・ケーラーの倫理学について研究することを通して、福音主義的な倫理学の考察に取り組んでいます。また、正統的な教理を守りながら理性的でもあり敬虔でもあるその神学を、日本の伝道に生かすことを目指しています。



●**著書・論文**
・「教育が教育であるために」(1)-(3)、東京神学大学神学会編『神学』75、76、78号、教文館、2013、2014、2016年
・「マルティン・ケーラーにおける教会の本質」、東京神学大学総合研究所『伝道と神学』4、2014年
・「マルティン・ケーラーにおける洗礼と伝道」、東京神学大学総合研究所『伝道と神学』5、2015年

2017年度 非常勤講師陣

神学部神学科		大学院神学研究科	
◇学際基礎科目	石部公男 情報基礎 小宮正安 キリスト教と世界史 佐々木高雄 法と人権1 法学概論 法と人権2 日本国憲法	◇専門教育科目：聖書神学関係 左近 豊 新約聖書神学Ⅳ 佐藤 泉 アラム語 本間敏雄 ヒブル語Ⅰ・Ⅱ 三永旨従 ギリヤ語Ⅰ・Ⅱ、新約聖書講義Ⅰ・Ⅱ	◇聖書神学関係 遠藤勝信 新約聖書原典釈義Ⅰ（M） 新約聖書原典特殊研究（D） 旧約聖書原典講義Ⅰ（M）
◇外国語科目	佐野好則 哲学思想史 田中 敦 哲学思想史 早川朝子 社会学 松原俊哉 現代の自然観 渡辺善忠 キリスト教と芸術2 音楽史	◇専門教育科目：歴史神学関係 小室尚子 宗教史Ⅱ、教会史Ⅴ 本城仰太 教会史Ⅰ、教会史Ⅲ	左近 豊 アラム語（M） 佐藤 泉 聖書語学特殊研究（D） 本間敏雄 旧約聖書原典釈義Ⅰ（M） 旧約聖書原典特殊研究（D）
◇保健体育科目	岡田光弘 体育Ⅱ 高橋 伸 体育Ⅰ	◇専門教育科目：古典語 小堀馨子 ラテン語Ⅰ・Ⅱ	◇組織神学関係 近藤勝彦 組織神学特講Ⅰ（M） 教義学特殊研究（D）
		◇教職課程科目 石部公男 教育の方法と情報技術Ⅰ・Ⅱ 菱刈晃夫 道徳指導法 森 真弓 心理発達と教育 教育的指導と相談の研究Ⅱ 特別活動指導法	◇歴史神学関係 藤本 満 教会史特講Ⅱ（M）
		山口 博 教育的指導と相談の研究Ⅰ 山本与志春	

2016年度 講演会・公開授業

- ◆講演会
 - ①「羊飼いのメンタルヘルス」 石丸昌彦先生（放送大学教授）
 - ②「『私は私の弟を守る者でしょうか？』—創世記4章1～16節に現れたカインの位置・考察—」 妻 照淑先生（イエス教長老会神学大学校副教授）
 - ③ 宗教改革の意義とその展開1「『喜びの神学—カルヴァンと私たち—』」 久米あつみ先生（東京女子大学・帝京大学 元教授）
 - ④ 宗教改革の意義とその展開2「宗教改革500周年を共同で記念するカトリック教会とルーテル教会—一致に関するルーテル＝ローマ・カトリック委員会50年の働き—」 鈴木 浩先生（ルーテル学院大学名誉教授・ルター研究所所長）
- ◆「旧約聖書神学Ⅰ」[アジア伝道論演習a] 合同授業
「レビ人のための歴代誌の改革プログラム」 妻 照淑先生（イエス教長老会神学大学校副教授）
- ◆公開授業
 - ①「カルヴィニズムと台湾」 鄭 仰恩先生（台湾神学院教会史教授・教会歴史資料センター主任・教務部長・学務副院長）
 - ②「血、命、そして贖罪：ヘブライ書におけるヨム・キップールのキリスト論的適用に関する再評価」
 - ③「英国における神学教育について」 デビット・M・モーフィット先生（セント・アンドリュース大学 新約聖書学上級講師）

キャンパスマップ

ラーニングコモンズ

図書館2階にあります。共同学習のためのスペースです。備え付けのコンピューターやプロジェクターの利用も可能です。教室として用いられることもあります。



ラウンジ

学生達の憩いの場です。ラウンジ系の学生によって用意されたコーヒーを飲みながら、語り合いのひとときを楽しむことができます。時には神学的な議論が交わされることも…。



礼拝堂

「東京神学大学の心臓」と言える場所。神学校生活の要である礼拝が守られるところです。クリスマス礼拝や卒業礼拝では共に聖餐に与ります。入学式や卒業式などの行事も、この礼拝堂で執り行われます。



ゲストハウス

学外からのお客様の宿泊に提供する施設ではありませんが、今では主にクラスやその他の学生の交わりの場所として利用されています。

パストラルケアセンター

室長との面談を通して、さまざまな悩みへの解決の糸口が与えられる場所です。教会や学校で人々の悩みを聞く立場に置かれる者として、自分の悩みを相談する機会を持つことも大切だと言えるかもしれません。



図書館

東京神学大学の学問の営みを支えるのが、この図書館です。鬼頭梓氏の設計による美しい建物です。2階部分には教室・会議室・研究室があります。



女子寮キッチン



男子寮居室



学生寮

全学生の約半数が生活しています。運営は寮生が担い、キャンパス内に居住する教員が寮監を務めます。ここでの共同生活が教室での学び以上に記憶に残っている卒業生も少なくないでしょう。



朝の寮拝

C教室 (コンピューター教室)



約20台のコンピューターが設置されている教室です。情報関係をはじめとして、さまざまな授業で用いられています。授業で使われていない時間帯であれば、学生の利用のために開放しています。

キャンパスカレンダー



宣誓式



夏期伝道実習壮行祈禱会



学内礼拝



クリスマス愛餐会



クリスマス礼拝



卒業・修了式



入学式

入学式・宣誓式
オリエンテーション
クラス別懇談会

全学懇談会
学生総会
運動会

全学祈禱会
博士課程後期課程
研究発表会

夏期伝道実習オリエンテーション／夏期伝道実習壮行祈禱会

夏期伝道実習

夏期伝道実習報告会
修士論文提出締切
日本伝道を担う青年の集い

神学校日説教奉仕

全学修養会

オープンキャンパス
クリスマス礼拝
クリスマス愛餐会

教職セミナー
全学祈禱会
学生総会

大学院 前期課程・後期課程内部入試／アジア伝道研修旅行(隔年)

卒業礼拝
卒業・修了式



運動会

入学すると始まる「神学する生活」

神学は、「学ぶ」だけでなく「神学する」もの。その本質は、講義や実習、独習に限らず、寝食を含む生活場面すべてにおいて神の真理を追究し、ときに情熱的に、あるいは理論的に日々格闘する神学に励むことです。

夏期伝道実習

学部4年次と大学院1年次の夏に、約4週間にわたって行われる必修プログラム。学生は全国各地の教会に遣わされ、様々な奉仕をしながら伝道者としての日常を学びます。



夏期伝道実習報告会



分団での協議

全学修養会

毎年秋に行われる全学的な行事です。学生たちが自主的に主題を定め、学内外の講師を招き、プログラムを作成し実行します。全教員・全学生が寝食を共にし、語り合い、祈り、神学の学びを深める修養のひとときです。

アジア伝道研修旅行

1973年に開設されたアジア伝道研究所の活動の一環として、アジア諸国のキリスト教をセミナーで学んだ神学生たちを対象に、2年に1度、主に東北アジア諸国（韓国、台湾、中国、香港、マカオ、フィリピン等）への現地研修ツアーを実施しています。訪問や対話を通して、欧米からの宣教によるアジア伝道圏共通のルーツを確認し、神学生間・教会間の交流と理解を深めています。



2017年2月2日 韓国研修旅行

学生の活動



学生会

学生会は、学部と大学院博士課程前期課程に所属する学生で構成されています。各種委員会、文化・体育クラブ、行事等様々な活動を行っています。伝道者の召命を受けた者は、学生会の活動を通して相互訓練をしながら神学生生活を送ります。それゆえ東京神学大学では、学生会をも「召命共同体」と理解しています。

主なクラブ活動

◆文化部

コーラス部 ハンドベル部 カルヴァン研究会
キリスト教教育研究会 ゴスペルソング同好会
EBC (English Bible Cafe) 組織神学研究会

◆体育部

サッカー部 野球部 テニス部

高校生会

教会に通う高校生は、希少な存在です。ただ、彼らが信仰の話をできる友人を持つことは難しいことかもしれません。東京神学大学の学生会はそのような高校生たちのために何かできないかと祈りました。そして、2012年から、高校生たちが教会のことや信仰のことを安心して語り合える場として「高校生会」というイベントを開催するようになりました。ブログもぜひご覧ください。



御言葉と祈りとおにぎり (MIOの会)

MIOの会とは、学生会活動の1つで「御言葉と祈りとおにぎりの会」の略称です。学びと奉仕で忙しい生活の中でも、クラスの枠を超えて、月に1度昼休みに集まり、聖書に聞き、祈り合い、食事を共にしながら語り合う時間を大切にしています。2016年度は、お隣の日本ルーテル神学校の神学生を招いて、教派を超えた神学生同士の交わりをもちました。



クラス担任とクラスメート

東神大では、学年毎にクラスを編成し、毎週火曜日にはクラス別祈禱会がもたれ、共に祈り合い、助け合いながら学びに励んでいきます。ここで共に学んだ友は、生涯にわたって、伝道して行く上での同労者となります。また、各クラスには担任の教員がおり、様々な相談をすることができます。



クラス別祈禱会

パストラルケアセンター

パストラルケアセンターでは、担当教員が個人的な相談を受け、面接を行っています。また、コーヒーを飲みながら、小グループで聖書研究や現代のさまざまな課題について話し合う交わりの場としても用いられています。



教会実習委員会

「教会と神学校は車の両輪」と言われます。教会での礼拝が土台となって神学の学びが行われ、教室での学びは教会での奉仕につながるものでなければなりません。教会実習委員会は東京学神大学と教会の仲立ちになって、日ごろの教会奉仕、夏期伝道実習、神学校日の奉仕実習等をサポートします。



留学生委員会

東神大のコミュニティーにとって、私達の視野を広げてくれる留学生の存在は貴重なものとなっています。留学生委員会は、日本語を母国語としない学生が、異文化の中で様々な課題や困難に遭遇した時に、相談を受け、留学生のニーズに対応できるよう努めます。



留学生懇談会

奨学金制度

本学では、多くの学生が学内奨学金の給付を受けています。希望者が決められた募集期間に申請書を提出すると、奨学金委員会はそれに基づいて審査を行ない、支給額等を決定します。学内奨学金には、新入生の授業料を補助する**入学時奨学金**、在校生の授業料を補助する**一般奨学金**、全国の教会・個人から寄せられた献金を財源として学生の生活費等を補助する**指定奨学金**、大学院へ内部進学する学生への**補助奨学金**等があります。

入学時奨学金	新入生の授業料を補助します
一般奨学金	授業料を補助します
指定奨学金	学生の生活費を補助します
補助奨学金	大学院内部進学の入学金を補助します

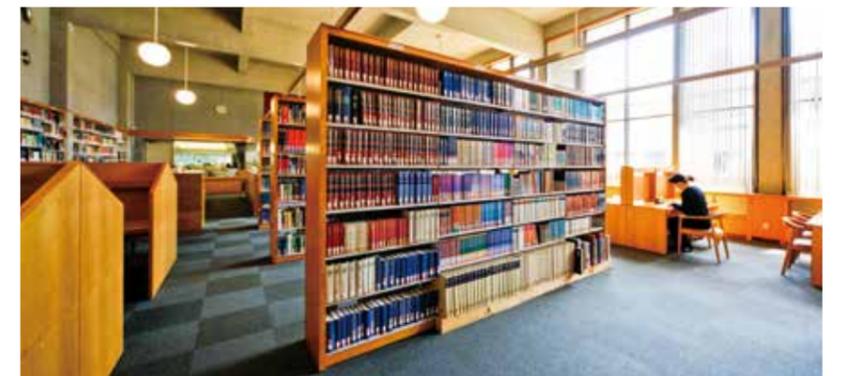
学生寮

キャンパスの中に学生寮があり、全学生の約半数が生活しています。キャンパスに住んでいる複数の教員が寮監を務めています。寮の運営は寮生が組織する寮委員会にゆだねられています。毎朝の寮拝、親睦会等の行事、何よりも共同生活そのものを通して交わりが深まります。



図書館

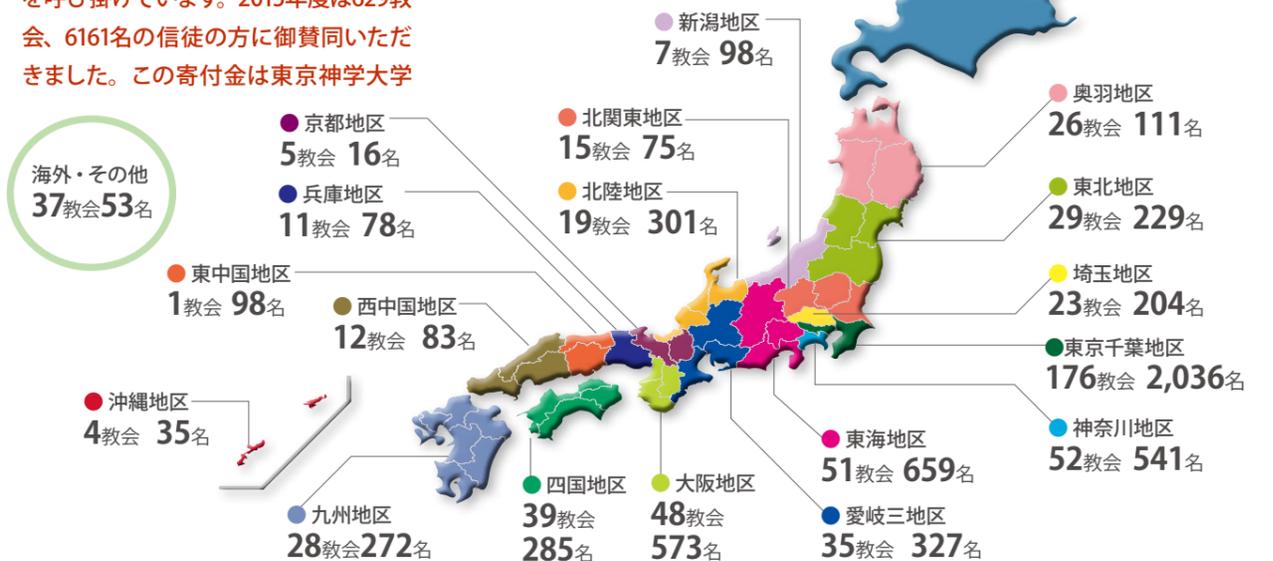
東京神学大学の図書館は、神学の学問性を極めるのに不可欠な資料・文献の宝庫として、古今東西のキリスト教文献等およそ12万5千冊（和書4万9千冊、洋書7万6千冊）を所蔵し、東アジア有数の神学専門の図書館となっており、学内外の学生、牧師、神学・キリスト教関係の研究者に利用されています。



後援会活動

東京神学大学は多くの方々に支えられています。後援会は全国の地域ごとに地区後援会を組織し、教会・信徒への献金を呼び掛けています。2015年度は629教会、6161名の信徒の方に御賛同いただきました。この寄付金は東京神学大学

の年間収入の半分を占め、奨学金等の財源になっています。伝道者を待ち望む多くの祈りがここに現れているのです。



※2015年度後援会活動実績に基づく数値

在校生の素顔



吉川 良

2016年度 学部3年

2001年に受洗。都内の私立大を卒業後、2016年4月、学部3年に編入学。

Q 東神大で学ぶことを決意した理由を教えてください。
A 受洗してから献身を考えることはありましたが、確かな思いになったのは、在学していたキリスト教主義の大学においてでした。主日礼拝に加えて、毎日の礼拝や講義を通し、聖書を学び、祈る時間が多く与えられました。その中でイエス様の十字架の救いがいかに尊いものであるか確信し、身をもって感謝をささげたいと思い、東神大への入学を決意しました。

Q 東神大の面白さ、魅力は何ですか？
A 東神大では幅広い教派・年齢の学生が共に学んでいます。様々な道を辿って召命を与えられた方々の証しを聞けるのは大きな魅力です。また、教職員との距離が近いことも特徴で、学生の名前を覚えてくださり、質問や相談にいつでも親身に対応してくださいます。そして、奨学金などの支援制度が充実していることも魅力の1つであり、それは多くの教会の助けによって成り立っています。



有田いづみ

2016年度 博士課程前期課程1年
組織神学専攻

社会福祉学科を卒業後、主に招かれ教会幼稚園にて勤務。退職、震災ボランティア、復職の中で、献身の召しを受ける。

Q 組織神学専攻を選んだ理由を教えてください。
A 聖書が伝え、教会で私たちが信じ告白している福音を、立体的に知りたかったからです。組織神学の分野では、聖書の証言に基づいたキリスト教信仰が、体系立てて学べます。つまり、初代教会から現代に至るまでずっと守られてきた教会の信仰の内容、キリスト者としての生き方、キリストの福音と今日の社会を結ぶ弁証学、それぞれと、また相互の関連性を学べるので専攻しました。

Q 神学の面白さ、魅力は何ですか？
A 神様はどのようなお方か、救い、恵み、約束、自由な選び、計らい、愛等、何となく知っていたこと、わかったつもりでいたことを深く知ることができること。また、学びを通し、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さを知らされ、己を何度も打ち砕かれ、委ねさせて頂けること。そして、神様は学んで理解できる対象でないことを知り、自分が被造物である恵み、神の憐れみ深さを知ることです。



上田充香子

2016年度 学部4年

2012年信仰告白。高校卒業後、京都の大学に通うが、召命を受け2014年大学を退学し、学部2年に編入学。

Q 東神大で学ぶことを決意した理由を教えてください。
A 信仰告白をした時は牧師になりたいなどこれっぽっちも思っていませんでした。しかし、様々な出会いを通して主が導いてくださり、牧師という献身の仕方が示されているのかもしれないと思わされるようになりました。その思いを牧師に相談をすると、「東神大に行きなさい」と勧められ、神様に人に仕えるために東神大で学ばせていただきたいと考えました。

Q 東神大の面白さ、魅力は何ですか？
A 本当に色々な人が集まっているというところです。年代、住んでいた地域、背景、本当に色々な仕方でもって神様がそれぞれを召し出して今ここに集められているんだということがよく分かります。また、召命共同体として、共に祈り合い、支え合い、教会生活や日頃の授業、夏期伝道実習等、様々な時間を通して神様の愛の深さを共有し、分かち合えるところです。



平向倫明

2016年度 博士課程前期課程1年
組織神学専攻

献身を決心し56歳で早期定年退職し、学部3年に編入学。(献身への反対者が皆無だったことに感謝している。)

Q 組織神学専攻を選んだ理由を教えてください。
A 複雑に絡み合った毛糸を解いていくことが私は好きです。そのような魅力を組織神学にも感じたので専攻しました。理解力・発想力・表現(行動)力が求められますが、それだから楽しいと思えます。丁度、台詞をもらった役者が演技に取組む手順にも似ています。あの偉大な神学者カール・バルトも、若い頃、周りの人から俳優になるのではと思われていたのだとか。

Q 神学の面白さ、魅力は何ですか？
A 神学は面白いです。何故なら聖書に書かれていることの意味が段々深められていくからです。東神大に来て、「聖書に書かれてあることの意味が分かるというのは凄いことなのだ」と実感しています。聖書の中に新しい宝を発見出来た時は、主のご臨在に気付かされ、ひれ伏す者とされ、感謝と喜びに満たされます。この喜びを誰かに伝えたいと説教が生まれます。神学の魅力です。

卒業生のはたらき



松島保真 牧師 日本基督教団 小松教会
(まつしま hisana)

国際基督教大学卒業後、海外ボランティア等を経て、東京神学大学学部3年に編入、2006年に大学院を修了、日本基督教団小松教会に就任。2008年受按。



Q：現在のお働きを教えてください。
A：教会での日常的な伝道・牧会に加え、関連幼稚園・こども園やキリスト教学校での説教奉仕等があります。また中部教区書記、石川地区での「聖書セミナー」の担当、北陸で毎年夏に行う「中高生キャンプ」スタッフ等の奉仕もしています。

Q：東神大の学びを振り返っていかがですか？
A：一言で言うと、とても刺激的かつ

楽しかったです。個性豊かな教授陣にキリスト教神学の面白さと奥深さを教えられ、時には信仰を揺さぶられるような経験もしました。また卒業しても共に祈り合い、励まし合える同僚者に出会えたことは何より大きな財産です。そして、2回の夏期伝道実習を通して、御言葉を宣べ伝える喜びを味わうとともに、神学は教会に仕える学問であることを実感しました。

森島 豊 教務教師 青山学院大学 大学宗教主任・総合文化政策学部准教授
(もりしま ゆたか)



2000年に東京神学大学学部3年に編入。2004年に大学院修了、日本基督教団長崎平和記念教会に赴任。2009年受按。2011年より青山学院大学に勤務。

Q：現在のお働きを教えてください。
A：聖書の福音を肌で感じるほど分かりやすく心に語りかけています。招かれればどこにでも行きます。普段は主に大学での礼拝説教、授業で奉仕し、他大学・小・中・高や教会に招かれて説教奉仕をする時もあります。一言でかっこよく言えば、福音伝道と神学研究に基づいて人格教育の業に仕えています(´ω´)

Q：東神大の学びを振り返っていかがですか？
A：今まで学んだ場所の中で1番楽しかった学び舎です。授業だけでなく、避難訓練や運動会等、全てが面白かったです。優れた先生の下で少人数の学生がディスカッションしながら思索できる大学は、もしかすると東神大以外に日本にないかもしれませんね。本当ですよ。「来て、見なさい(ヨハネ1:46)」(「ー+」)キラーン



本庄侑子 牧師 日本基督教団 大阪教会
(ほんじょう ゆうこ)

バイオラ大学心理学部卒業。2010年に東京神学大学学部3年に編入学、2014年に大学院修了、日本基督教団大阪教会に赴任。2016年、受按。



Q：現在のお働きを教えてください。
A：聖日と木曜の礼拝説教と、礼拝に集えない方々への訪問聖餐を中心に、祈祷会の聖書黙想、新来者対応や求道者会の整備、青年会の指導、事務作業等を担っています。近隣に急増する子育て世代への伝道のため、英語で聖書のお話をすることもあります。また、大阪YMCAで、不登校経験者が集う高校の宗教の授業や、職員向けの聖書研究を担当しています。

Q：東神大の学びを振り返っていかがですか？
A：学内礼拝で御言葉に打たれる経験を重ね、説教に命をかける重大さを身にしみて教えられました。原典に聴き続けること、教会史的な思考等、一朝一夕では身につかない学びばかりでしたが、一生学び続けるための道具と、良き師や仲間との出会いを与えられました。学生会活動や寮生活を通して、御言葉が人格や生活に血肉化させられた経験も大きな財産です。

教職セミナー

毎年1月初旬に開催される教職者のためのセミナーです。2泊3日のプログラムで、神学的主題のもと、主題講演、シンポジウム、分団セミナー等が行われます。全国の諸教会から毎年100名ほどの牧師たちが集います。2016年度は「宗教改革の意義とその展開」という主題でした。



キリスト教学校伝道協議会

明治以来、福音伝道と教会への招きのために全国各地に設立されたキリスト教主義学校には、建学の精神を担う校長・学長・宗教主任・聖書科教師たちがいます。本学は伝道の最前線に立つその担い手をも養成しています。毎年この協議会で、学校の代表者たちと今日の諸課題と使命を語り合います。



日本伝道を担う青年の集い

1999年から始まった「日本伝道を担う青年の集い」は、教会に集う青年達の交わりの機会として、また、それぞれの仕方で伝道の働きに仕えていく力を与えられる機会として、首都圏の諸教会が発起人となり、本学を会場に行なわれています。共に御言葉にあずかって、語り合しましょう。



日本伝道協議会

日本基督教団の教会としての崩壊の危機を憂えて、諸教会に財政的支えだけではなく教理的協働を呼びかけて、1989年に準備集会を行って後、1回の休みを挟んで今日まで形を変えながら毎年集まっています。昨今は若い牧師の伝道オリエンテーションの性格が強くなっています。



韓国の神学校との交流

東神大はソウルのイエス教長老会神学大学校との間に相互協力協定を結んでいます。具体的にはお互いの教員を招待し合って講演会をもちます。2016年には旧約学者の裴熙淑（ペ・ヒスク）副教授を迎えました。2017年春には小友聡教授が訪問しました。本学卒業生で日本基督教団からの宣教師である洛雲海（ナグネ）牧師がイエス教長老会神学大学校の助教授として奉仕しており、両校の懸け橋になっています。今後はお互いに学生を受け入れ合うようになることが望まれます。



ハンギョングジツ記念礼拝堂内部



景福宮

研修旅行に参加して (2016年度学部3年 川合浩史)

海を越えて世界に学び、時を超えて歴史に学び、舌も肥えて文化に学ぶ。海外にいながらも外国にいる気がしなかったのは、韓国も韓国の人も世界の中にあり、歴史においてつながるから。しかし、そこでは自分が教わった歴史が真実でないことも知る、カルチャーショックと共に。食事それほど味が良く、毎食おいしかった。

研修旅行に参加して (2016年度大学院博士課程前期課程2年 森下静香)

韓国研修旅行へ参加でき本当に良かったです！アジア伝道論の授業を受け、全く知らなかった韓国について学びましたが、海を越えて実際に韓国に行くことによってその学びが結実しました。授業で教わった堤岩里教会に行くことができ、「こんなに空気の澄んだ場所であるような残酷な事件が起きたのか」と和解への思いを新たにしました。